

# セミをかんさつしよう！【背割堤(せわりてい)のセミずかん】

※このかんさつシートは、できるだけ小学3年生までのかん字をつかっています※

セミはカメムシやアメンボなどと同じ半翅目(はんしもく)またはカメムシ目というなかまのこん虫です。日本には37しゅるい(36しゅるい、1あしゅ)のセミがいます。背割堤(せわりてい)では6月の終わり～9月の終わりまでセミが見られます。かたえだなどにうんだセミのたまごは、孵化(ふか)した後、土の中にもぐり、4～5年後に地上に出て、主に午後8時よりおそい夜に羽化(うか)が行われ、せい虫になります。羽化が終わった直後のセミは白く、やわらかな体をしています。このセミが朝になるとび立っていき、じゅえきをすって生活していきます。ちなみに、何年か前に、羽化したセミは1週間だけではなく、もっと長く生きていけることが中学生の研究によって明らかになりました。この研究で明らかになった、羽化したセミが生きる日数は、一番長い記録でアブラゼミが32日、ツクツクボウシが26日、クマゼミが15日でした。このかんさつシートをつかって、みんなでセミをじっくりかんさつして、今日からセミはかせをめざしてみよう！

※孵化(ふか)…たまごからかえり、よう虫になること ※羽化(うか)…さなぎから出て、せい虫になること

## ◆ セミの成虫(せいちゅう)を調べよう！

## ◆ セミの幼虫(ようちゅう)を調べよう！

ポイント①：体はちいさく、体長が25mmより小さい

体全体にドロがついている。体はちいさく、丸い形をしている。木の根もとの近くで見つかる。

体はほっそりしていて、色がうすい。しよっ角は7節(7つのふし)で、毛が少ない。木のみきや、えだで見つかる。

体の色はこい。しよっ角は7節で第4節(体の方から4つめのふし)が第3節よりも長く、毛が多い。(背割堤では、ぬけがらはみつからない)

ポイント②：体が大きく、体長が25mmより大きい

体の色は、ややうすい。しよっ角は7節(7つのふし)で、毛が少ない。木のみきや、えだ、葉の先などで見つかる。(背割堤ではぬけがらはみつからない)

体の色は、ややうすい。しよっ角は7節で、第3節(体の方から3つめのふし)が第2節よりも長く、毛が多い。木のみきや、えだ、葉の先などで見つかる。

体長は30mmより大きいこともある。体の色はこい。おなかがわの、むねの部分にとっ起があるしよっ角は8節で、毛が少ない。木のみきや、えだ、葉の先などで見つかる。

ぬけがらをよこから見ると...



ニイニゼミ



ツクツクボウシ



ヒグラシ



ミンミンゼミ



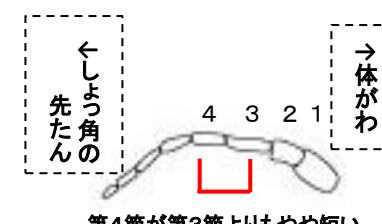
アブラゼミ



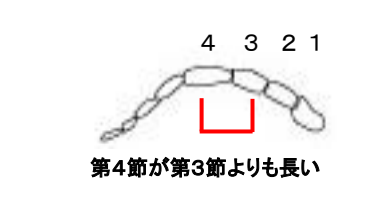
クマゼミ

しよっ角(かく)やおなかがわのとくちよう

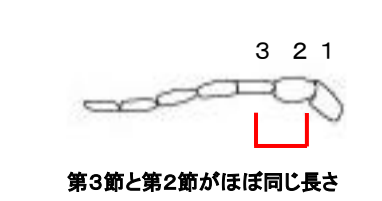
(ドロが付いてわかりにくい)



第4節が第3節よりもやや短い



第4節が第3節よりも長い



第3節と第2節がほぼ同じ長さ



第3節が第2節よりも長い



おなかがわのむねの部分に、とっ起がある

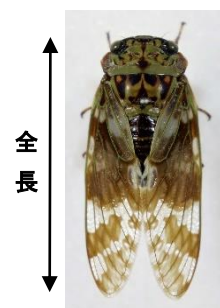
ぬけがらでわかるオスとメスのちがい！



メスのおなかがわには、産卵管(たまごをうむためのくだ)のもとになるふぶんがあります

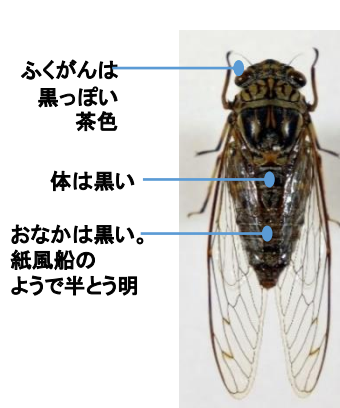


アブラゼミの羽化



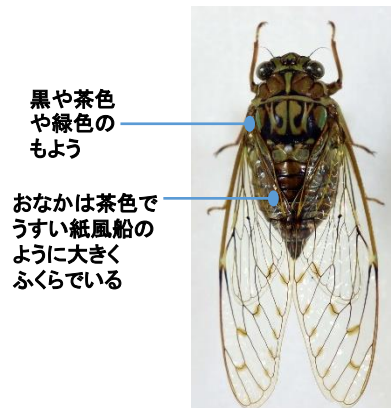
ニイニゼミ

全長33～38mmと小さく、前はねにまだらもようがある。後はねの真ん中は黒色。6月の終わり～8月の終わりの間に見られる。なき声は「チー」と、れんぞくした高い音。



ツクツクボウシ

全長40～45mmと中くらいの大きさで、はねがとう明。体は黒色で表面に金色の細かい毛が生えている。7月なかば～9月なかばまで見られる。鳴き声は「ツクツクポー」と聞こえる、とくちようのある音。



ヒグラシ

全長42～50mmと中くらいで、はねがとう明。体は黒っぽい茶色で、緑色と黒色のまだらもようがある。6月の終わり～9月はじめごろまで見られる。鳴き声は「カナカナカナ」と聞こえる。背割堤(せわりてい)では少ないけれど、男山や大山ざき町の方からとんできます。



ミンミンゼミ

全長55～65mmと大きく、はねがとう明。体は黒地に緑色のまだらもようがある。7月なかば～9月なかばの間に見られる。鳴き声は「ミンミンミンミン」を数回くり返す音。背割堤では少ないけれど、男山や大山ざき町の方からとんできます。

緑の地に王かんのような黒いもよう。地域(ちいき)によって、このもようがちがっています

おなかの部分はかたい



アブラゼミ

全長53～58mmと大きく、はねは黒っぽい茶色で、に黄緑色のすじがある。体は黒色。7月なかば～9月の終わりまで見られる。鳴き声は「ジー、ジリジリ」を何度もくり返す音。



クマゼミ

全長61～60mmと大きく、はねはとう明。体は黒色で銀白色の細かい毛が、大人になったばかりのセミには生えている。7月はじめ～9月はじめの間に見られる。鳴き声は「シャー、シャー、シャー」と強い音。

黒い大きな体



オス メス

【オスとメスのちがい(おなか)】

オスには腹弁(ふくべん)と呼ばれる音を出せる部分があります

### ★かんさつのポイント！

西日本の平地では、クマゼミの鳴き声が暑い夏(7～8月)によく聞こえてきます。クマゼミは朝から午前中に鳴いていることが多いセミです。

一方、かん東地方では、ミンミンゼミがまちの中で日中に多く鳴いています(西日本ではミンミンゼミは山地や森に生息するセミです)。セミのしゅるいは場所や時期、鳴く時間などにちがいがあります。背割堤でかんさつしたセミのしゅるいや、家の近所、おでかけ先などで見つけたセミのしゅるいをくらべてみましょう。